

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.182

2015/01/26

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

保全活動開始から15年目に入ります



元旦の守護岩詣で(15/01/01)

細々と観察コースの草刈から始まった本会の保全活動も今年で 15 年目に入ります。この 15 年間で森の様子は大きく変わりました。1990 年代後半から始まったナラ枯れの進行は現在峠は越えたものの小規模には継続し、森の各所にギャップが形成されました。一時期ピークを過ぎたかと思われたアカマツの枯死は今また拡大しています。これに加えてシカの食害が年々増大し林相にも変化が出始めています。これに抗するための食害防止作業に翻弄された 2014 年でもありました。2000 年代初頭の森への回帰が当面の保全活動の課題です。保全活動の成果としては、サワラン・クサレダマ・ミヤコアザミ・アケボノソウをはじめとする希少種の増殖があり、南部湿原のミツガシワの再生は今春にその成果が見られるはずですが、しかし、森全体の林床の植生は貧弱化が進行しており、今後の保全活動の大きな課題です。その指標がギフチョウ（これまで採取圧のことを考えて公表していませんでした）です。2000 年代初頭には森のほぼ全ての地域で見られ、産卵も大量に行われていました。しかし 2010 年を最後に成虫も卵も全く観られなくなりました。直接の原因は食害によるアツミカンアオイの衰退と考えられます。アツミカンアオイは、天然更新試験地のネット内では、少し戻って来た気配はありますが往時とは比べものになりません。次の保全活動の目標は、ギフチョウが乱舞する森に戻すことですが、これは並大抵ではありませんが、それを目指してがんばりたいものです。

林床の下層植生が貧弱な要因は、シカの食害によるものばかりで無く、アカガシ林を中心に林床の日照不足



絶滅した?ギフチョウ

吸蜜するギフチョウ (03/04/22)

産卵するギフチョウ (04/04/11) アツミカンアオイ (03/04/22)

ギフチョウの卵 (02/04/28)



北部湿原への土砂流入

も大きな要因になっています。アカガシ林では、下層植生が皆無に等しい状態になっている地点が大部分です。これが山地崩壊の一因となり 2013 年 9 月の北部湿原への大量土砂流入にもつながっています。天然更新試験地の再生状態を考えれば、アカガシ林の伐採更新が有効ですが、本会の現在の陣容ではとても手出しできない状態です。

天然更新試験地の
アカガシの萌芽

積雪対策もなかなか大変・・・



着雪で弛んだネット(14/12/08)



ネットを撤収した湿原(14/12/08)



斜面部の波板撤収(14/12/13)

例年初雪は 11/20 過ぎなのだが今冬は 12 月に入っの初雪でしたが、これが根雪となりました。何時根雪になるかを見定めて防獣ネットの撤収をしなければなりません。しかし天然更新試験地では、昨冬1mを超える積雪でも食害に遭ったため撤収の時期を決めるのに一苦労しました。ところが今年は現在までのところ、積雪が1mを超える頃から、殆どシカが森に現れません。その理由は定かではありませんが、もう積雪があると森には食いが無いと見切りをつけたのなら、それはそれで問題です。積雪期のもう一つの作業に湿原の波板の撤収があります。波板はイノシシが対象ですが多少の積雪は掘り起こしをします。したがってある程度の積雪をした後に撤収する必要があります。北部・中央・南部湿原の全ての波板を撤収するとなると1日ではとても出来ないし、雪融後の再設置には多大の人力が必要になります。そのため積雪の雪圧がかかり波板が変形する斜面部のみの撤収を行いました。このような防獣作業に明け暮れた 2014 年ですが、シカやイノシシの捕獲も考える必要があるとして、森林キーパーの富岡氏が昨年罠免許を取得してくれました。猟期に入って早速罠を仕掛け



餌の小粒を播く富岡氏

昨秋は2頭の子ジカを捕獲できました。その肉は美味しかったということです。ところが降雪期に入って以降捕獲には至っていません。シカを罠におびき寄せるため餌を播くこともやって貰っていますが、罠を見事



餌だけを失敬するシカ(14/12/27 17時)

に避け餌だけを失敬するという失礼な事態となっています。

今冬は一日おきに湿雪があるという日が続いています。このためかなりの樹木が折れています。植林のヒノキも例外ではありません。観察コース沿いの植林はそれほど広く感じませんがその背後に広い植林地があります。せめて観察コース沿いだけでも枝打ちをしたいと 2010 年から主に冬場の仕事にしています。積雪期は危険なようですが、足場を固めると、積雪の無い時よりも作業がし易いという利点もあります。枝打ちをしていると殆ど土壌が無い岩場に育つ株も有ります。これは植林するとき他の場所から土を持ってきて苗木を植えたところです。先人の汗水を思うと枝打ちがされない枝に湿雪が着雪している光景を見ると腹立ちさえ覚えます。雪折れしたヒノキは、雪融け後伐採したいと考えています。



アカマツの凍裂 (14/12/15)

見事な凍裂 12 月 15 日降りしきる雪の中をブナの森へ向かう途中、アカマツの幹に根元から上に見事な凍裂（樹木の中の水分が冬 期間の低温で凍結し樹幹に裂け目のできる）が見つかりました。凍裂が発生するのは、気温が-20℃以下くらいだと言われているのですが、この日の最低気温は-5℃にもなってないと思われま



枝打ちがされてない無残な植林地(14/12/15)



枝打ちしたヒノキ林(15/01/25)

山門水源の森でこれほど見事な凍裂が見られたのは初めての事です。凍裂の音は、下記 URL で聴くことができます。

http://cgi2.nhk.or.jp/michi/cgi/detail.cgi?dasID=D0004150022_00000